



倉田小だより 3月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

生きているということ

校長 丹羽 多香

2月も今日で最終日となりました。6年生は、卒業まで残すところ1か月です。

さて、6年生の国語の教科書には、谷川俊太郎さんの詩「生きる」が掲載されています。

私たちは、日常生活の何気ない一瞬一瞬に、喜びや愛おしさを抱く感受性をもっています。美しいものに心を動かされ、隠された悪に悩み、苦しむ気持ちをもっています。自分以外の多くの人がこの世界に存在し、死に直面したり新たに命が誕生したりしていることも知っています。そして、それでも地球は回っていて、変わらずに明日が来ることに気づいている子どもたちもたくさんいます。

6年生の子どもたちは、谷川さんの思いを受け取りながら、「生きる」ことってなんだろう、自分はどのような瞬間に「生きている」と感じるのだろうかと授業を通して考えてきました。それぞれが、今、この瞬間に感じる「生きているということ」を言葉にし、倉田小学校6年生の「生きる」を詩にまとめました。

2月19日(木)には、6年生の小学校生活最後の授業参観(OSK)が行われました。卒業を前に、「善心・善新・善深～ありがとう 心を込めて～」と称して、自分たちの成長と周囲への感謝の思いを伝える会を企画したものでした。

この日、6年生は、教科のグループや行事、委員会のグループに分かれ、自分たちが活動した内容やそこで得た知識、考えたことを発表しました。この1年間で心に残った活動や苦労した経験、友達と一緒に乗り越えた喜びなど、自分の言葉で語る姿が見られました。また、6年生担任の力を借りず、仲間と声をかけ合い、力を合わせて、運営する姿も立派でした。そして、小学校生活を振り返り、「生きていること」としてその一瞬一瞬を確認している様子や、紡ぎだされた言葉には、心を動かされました。

6年生の考える「生きていること」は、「絵を描いているときに楽しいということ」であり「勝利して喜ぶということ」でもありました。また、「素直に謝ると信頼を得られるということ」「人との出会いに感謝すること」も「生きている」と感じる瞬間だと伝えていました。「新学期の桜」や「とんがったえんぴつ」といった風景や身近なものも子どもたちが「生きている」と感じる象徴であるようでした。子どもたちは6年間の小学校生活を終え、新しい世界へと巣立ちます。当たり前の日常として存在していた学校生活や友達、そこで得た知識や経験が、子どもたちにとっての「生きていること」なのだという事実が、うれしいことでもあり身の引き締まることでもありました。これから、さらに多くの経験を積み、人生を豊かに生きてほしいと願っています。

6年生の「生きる」はこのように続いていきます。

生きているということ いま生きているということ

卒業まであと十七日ということ

いまだこかで最後のチャイムが鳴っているということ

いま いまが過ぎてゆくこと

令和7年度の倉田小学校の教育活動が間もなく終了します。保護者の皆様、地域の皆様、温かいご支援ご協力をありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。